

## 牛舎の種類

牛舎は牛が寝たり、エサを食べたりしながら多くの時間を過ごす場所です。その内部がどのようなになっているか、皆さんはご存知ですか。牛舎は乳牛の飼い方によって構造が異なります。今回は牛舎の中をのぞいてみましょう。

### ◆つなぎ飼い式牛舎

牛を1頭ずつ、つないで飼うのが「つなぎ飼い牛舎」と言います。このうち、中央通路に面して牛の頭が向かい合うのを対頭式、お尻が向かい合うのが対尻式です。つなぎ飼い牛舎は、牛1頭ごとの区画が決まっており、個々の牛に目が行き届きやすく、健康状態などをチェックしやすいという特長があります。土地の狭い日本では多くがこのタイプの牛舎で、人間が移動しながら搾乳やエサやりを行います。飼養管理に機械を使用しにくい時間がかかり、多頭化しにくいといった欠点もあります。



### ◆放し飼い式牛舎(フリーストール/フリーバーン)

牛をつなぐず、牛舎内を自由に動き回れるようにした牛舎です。そのうち、牛のベッド(ストール)が区切られているものを「フリーストール」、牛のベッドを区切らずどこでも自由に寝られるようにしたものを「フリーバーン」と言います。つなぎ飼い牛舎に比べて、個々の牛に目が届きにくいという欠点はありますが、牛は牛舎内を自由に動き回り、自分でエサや水を摂るため人間の作業を軽減できます。搾乳時はミルクパーラーと呼ばれる搾乳室に牛が自ら移動するため搾乳作業が効率よく進みます。最近は搾乳ロボットを導入する牧場も増えています。

